

Japanese Welfare Society in Australia



# Hope Connection Newsletter No.45

ホープコネクションニュースレター第44号 発行日2008年4月1日 発行者 Hope Connection Inc.

住所/郵便宛先 c/o Migrant Resource Centre, 40 Grattan St. Prahran VIC 3181 電話 (電話相談兼用) 0408-574-824

\* Hope Connection Inc. はビクトリア州政府に登録された非営利非宗教の社会福祉団体です \*

ホームページ : <http://members.optushome.com.au/hopec> e-mail : [hopec@optushome.com.au](mailto:hopec@optushome.com.au)

## ホープコネクションからのご挨拶

メルボルン周辺は紅葉の季節になりましたが、山々を深紅に染める日本の秋の眺めには負けてしまいますね。また、この夏に数回襲った豪雨で潤れ果てていたダムが潤ったところもありますが、このところ異常な猛暑が続いたりまだまだメルボルンの水の使用制限の解除にはほど遠いようです。

さて、昨年9月にホープコネクションが開催しましたヘルシーライフ・フェスティバルにお越しくださいました故入江鈴子さん(入江さんについてはイギリスで邦人の方達のお世話をされていたこと、メルボルンでも高齢者ケアの必要性などを訴えたインタビュー記事が日豪プレス1月号に掲載されました。ボランティアの皆さんに寄せる入江さんからのメッセージも当ニュースレターに記載されています。)との出会いがきっかけとなり、孤独な生活をされている日本人高齢者のためのケアの必要性を強く感じました。高齢者ケアについては2年ほど前からホープコネクションの活動課題の検討にあがっていましたが、入江さんとお話する機会を何回か持つことができたことから、高齢者ケアの早期スタートに拍車がかかり、このたび実践の第一歩を踏み始めました。

今年からPrahranにあるStonnington Community Centre (40 Grattan Street, Prahran)内のミーティングルームが無料で借りられることに

なり、毎週木曜日、午後1時から午後3時まで邦人の方達にご利用いただけることになりました。残念なことに、入江さんはこの時を待たずして世界を去ってしまいましたが、入江さんのご遺志を引き継いで、これからのホープコネクションの活動の一つに加え、当面は週に一回、2時間を高齢者の方々を中心とした集いの場として、皆様と共に日本語で日本のカルチャーを楽しめる団欒の場とできるように考えていきたいと思っています。

世界的な傾向である高齢化が進むなか、メルボルンにも孤独な生活をされている方もいらっしゃると思います。Stonnington Community Centreは、場所的に公共交通機関の便もよく、日本食材を扱っているお店や市場も近くにあるのでとても便利なところですが、当面は毎月第二木曜日に、お茶を飲みながらざくばらんに今後の高齢者サービスについて話し合う会を催しますので、関心をお持ちの方々には是非立ち寄っていただきたいと思います。そのご案内は3ページ目ですので、ご覧になって下さい。

さて、5月のカルチャースクールは恒例「メルボルン生活情報」です。毎年、特に新しく赴任されてこられた方、学生さんなどに大人気です。メルボルンで楽しく過ごせるためのノウハウを知る絶好のチャンスです。こちらの詳細もバックページをご覧ください。

## ホープコネクション、JfP (Japanese for Peace) またボランティアをしている皆さんへ

### 入江鈴子(故人)さんからのメッセージ

82歳の私が「日豪プレス、JfPピースカフェ」コラムに掲載されたJfPメンバー小泉紀之さん(大学生)の書かれた記事を読んで、思わず「ここにも仲間がいた!」という感激に包まれました。その感激は、余命1ヵ月と主治医に宣告された現在の私の状態を忘れさせてしまうほどの大きな喜びでした。

ヨーロッパに25年、豪州に4年余の海外生活の体験から学んだことは、これらの国では、ボランティアをすることが人間として当たり前だというメンタリティーが定着していることです。これは日本では余り見られないことではないでしょうか。ボランティアの根本精神は、「人間は基本的に平等であるべきだ。強者が弱者を助けるのは人間としての義務である」という哲学に基づくものです。ですからその義務

を果たさないで、自分の人生を終わりにしたくない、それは「人間として恥ずかしいことだから」という彼らの人生観でもあります。

さらにその哲学的、宗教的思考は、男女、年齢を問わない、教育や社会的地位を問わない、そしてお金がある、ないをも問わないという次元のもので、各自が自分の能力に応じてそれぞれのやり方で自分に合うボランティアグループに入って実践しています。

世界各国の人々が、日本人のメンタリティーを理解できないという大きな理由は彼らの持っている人生哲学を日本人は持っていないからだだと思います。しかし、数は少なくとも日本人の中にも年齢を問わず、ボランティア精神に目覚め、それを実践している人たちもいますし、私自身日本や英国でその仲間を増やすための努力をしてきました。

残念なことに、多くの日本人はそうしたボランティアや平和を守る運動をしている人たちを理解しようとせず、政治的運動とか、左翼的だから危険だと非難する人たちもいます。この種の人たちは実に狭量な視野と島国根性でしか「人間」というものを考えることができないからだと思います。

ですから世界の人たちに日本の存在を知らせたいときは、お金か、さもなくば米大統領、ブッシュ氏の言うことについていけば安全という主体性の無い言動しかできないのです。真実、私欲抜きで人間を愛し、そのために平和を祈ることのできる人たちは、民族を問わず仲間作りをし、励ましあって生きています。わたしはその仲間の一人として自分の生涯を生きてきたことを誇りにしていますし、満足して人生の幕を閉じることに感謝しています。

次に、なぜ私が日本人のためのエイジドケア (Aged Care) が必要かという理由を述べます。脊髄の手術をした後、リハビリ病院から退院し自宅に戻ったのが 2007 年 5 月半ばでした。手術で上半身、下半身の神経が麻痺した状態となり、その回復には 1、2 年のリハビリが必要となりました。従って日々の生活そのものがリハビリであるという前提に立っていました。歩くこと、食事作りも怠けないように努めていました。またプールでのリハビリ運動など、療養士の指導の元で週 2 度、所属している地域カウンシルのエイジドケアからのサポートを受けていました。自宅から 5 分のところに住んでいる次女が仕事で 3 週間日本に行った期間は実に心細い思いをしました。当時の私は、買い物、食事などまだ人の助けが必要だったのです。

地域カウンシルのエイジドケアや人種の異なる友人たちに助けられながら日々を過ごしていましたが、今ひとつ私は心の中で何かを求めている自分に気がつきました。それは日本語と日本食です。50、60 代の若い年齢ならそれほどでもないでしょうけど、年老いて病気や大きな手術をし、身体も心も弱ってしまったときに白人社会の人たち

けの中で生きてゆくのがしんどくなってきたのでした。

このことは私が英国にいたとき、いわゆる戦争花嫁といわれた世代の日本人女性たちの老後、落葉木根というように心が自分のルーツに戻るといふ自然体の姿を見てきましたので、私にもそのときが来たのだと思っていました。ところがそのときの私にメルボルンでは友人といえる日本人がいませんでした。そこで私は、新聞広告で見た「日本語でどうぞ」というところに電話し、事情を話したところ、「送り迎えや買い物も手伝います」といわれて喜んだ私だったのですが、結果的にはそのクライアントにすることが目的だったことが分かり、残りのアポイント 5 回をキャンセルした途端にがっかりと連絡がなくなりました。その後のわたしの惨めな気持ちは「オレ、オレ詐欺」に引っかけた様な情けない日々でした。

そこで私は考えたのです。もしメルボルンの日本人社会に日本人のためのエイジドケアのシステムがあつたら、そこから派遣されて来る人は週 1 回でもいい、たとえボランティアであってもガソリン代、実費を払っても買い物や掃除を手伝ってもらい、日本食を共にしながらひと時を過ごすことができればどんなに癒されるでしょうと。他の民族はみんな各カウンシルの福祉を利用しながら、その一方でその民族のためのエイジドケアを作っています。

そして、今回ガンの末期にある私のところにホープの皆さんや JFP の仲間が時折訪ねてくれる、日本語で話す、これがどれほど私の心を癒してくれているかを、私は身をもって味わい、感謝しています。

ホープさんや JFP の仲間たちの日本人のためのエイジドケアはもうスタートしているのです。メルボルンに住む日本人永住者たちがやがて年老いて、心淋しくなったときに私が今味わっているこの幸せ感を味わっていただきたいとしみじみ思うのです。

2007 年 12 月 17 日

Malvern の自宅にてベッド上で記す

## オーストラリア高齢者福祉制度の基礎知識

ソーシャルワーカー 水藤 昌彦

日本では年金問題が注目を集めていますが、オーストラリアの高齢者福祉制度はどうなっているのでしょうか？今回はビクトリア州における代表的なサービスをご紹介します。

### ローカル・カウンシル

高齢者のためのサービスのなかでいちばん身近な存在と言えば、お住まいの地域のローカル・カウンシル(Local Council)ではないでしょうか。ローカル・カウンシルを通じて受けることの出来る代表的なサービスとしては、在宅介護(in-home respite care)、家事援助(home care)、そして配食事業(meals on wheels)などがあります。これらは連邦政府が実施している Home and Community Care (HACC) (「ハック」と発音) の一部です。HACC はオーストラリアにおける高齢者、障害者への在宅支援の大きな柱となっています。

利用にあたってはカウンシルによるアセスメントを受けて、利用資格があるかどうか、利用出来るとすれば内容や頻度をどうするのかといったことを話し合います。利用料の負担を求められますが、連邦政府からの補助があるのできわめて少額です。問い合わせは、お住まいの地域のローカル・カウンシルに直接ご連絡ください。White Pages あるいはカウンシルのウェブサイト電話番号が載っています。

### センターリンク

センターリンク (Centrelink, [www.centrelink.gov.au](http://www.centrelink.gov.au)) は連邦政府の一部局であり、高齢者年金(age pension)、障害者年金(disability support pension)、介護者手当(carer allowance)といった所得保障の分野を担当しています。年金などの所得保障について質問があれば、まずセンターリンクにお問い合わせください。

オーストラリア各地に事務所があり、電話での問い合わせも可能です(13 23 00)。窓口は混み合っていることが多いので、まずは電話で問い合わせせてみて、必要であればインタビューの予約を取るという方法もあります。ウェブサイトでは各種手当の受給条件や支給額、事務所の所在地一覧などの情報を手に入れることが出来ます。

### 高齢者ケア・アセスメント・サービス

英語では Aged Care Assessment Services (ACAS) (「エイキャス」と発音。ビクトリア州以外では ACAT) と呼ばれます。1986 年に制度化され、70 歳以上人口 2 万人につき 1 チームの割合でオーストラリア全土に設けられています。「虚弱な高齢者のケアについてのニーズを長期的な視点からアセスメントする」ことを目標として、医師、看護

師、ソーシャル・ワーカー、理学療法士といった様々な専門職からなるチームで活動しています。

高齢者が必要な介護を受けながら生活するための入所型施設としては、要介護度の低い方向けの「ホステル」、それよりは要介護度の高い方を対象とした「ナーシング・ホーム」の二種類があります。これらの施設の利用するためには、ACASによるアセスメントが必要です。

また、施設に入所することなく、ホステルやナーシング・ホームと同じレベルのケアを受けるための在宅ケア・パッケージもあります。こうした在宅ケア・パッケージを利用する場合も ACAS によるアセスメントを受けることが義務づけられています。

アセスメントは無料で、利用にあたってはかかりつけの GP からリフェラルを受けるか、あるいはご自分で直接連絡を取ることも出来ます。最寄りの ACAS 連絡先については

Aged and Community Care Information Line :1800 500 853  
にお問い合わせください。

以上、ビクトリア州の高齢者向けサービスについて、大まかな情報をお伝えしました。詳細については高齢者の当事者団体である COTA (Council On The Aging, [www.cotavic.org.au/home](http://www.cotavic.org.au/home)) が運営する

Seniors Information Victoria

1300 135 090 / Fax: (03) 9654 4456

Email: [askcota@cotavic.org.au](mailto:askcota@cotavic.org.au)

へお問い合わせになることをお勧めします。また、ホープコネクションの日本語電話相談(0408 574 824)もあわせてご利用ください。

なお、ご存知のように昨年 11 月に労働党が連邦政府の政権を取りましたので、高齢者福祉の分野でも今後政策や制度が変更されていくと思われます。今回の記事は 2008 年 3 月時点での情報を基にしていますので、今後の動向については連邦政府のウェブサイト

[www.health.gov.au](http://www.health.gov.au),

[www.humanservices.gov.au](http://www.humanservices.gov.au), [www.seniors.gov.au](http://www.seniors.gov.au)

をご参照ください。

## カルチャースクール報告

## 『ど素人のための自分でできる自動車整備』

3月15日、モナシュ大学クレイトンキャンパスの駐車場で行われたホープコネクション主催カルチャースクールでは自動車整備士の齊藤喜夫さんから、自分でできる車の点検について、デモンストレーションを交えながら講習会をしていただきました。

参加者の方々の車のボンネットを開けて日常点検に必要な 15 の項目をひとつひとつ解説してもらいました。多くの方がボンネットを開けたことがない、もしくは開けてもどこを見たらよいかわからないということでしたので、エンジンオイルの量はどの様にしてチェックし、交換時期はいつか、冷却水、バッテリー液の量のチェックの仕方などを、車種によっても異なるため、1台1台細かく教えていただきました。

またバッテリー交換の際には、価格が\$80以上の日本製のものがおすすめなど、ちょっとしたヒントもたくさん教えて下さったので、皆さん細かくメモをとっておられました。

いざ調べてみるといくつかの自動車で冷却水が少なくなっていたり、エンジンオイルの変え時、タイヤの空気圧の少ない自動車などなど、参加者の方々の顔からは今日調べてもらってよかった、という安

堵の声があちこちからあがっていました。

タイヤの交換時に必要なジャッキなどの道具が車のどこに入っているかの確認から、実際交換してみるところまできちんと教えてもらい、参加者自ら手ほどきを受けて実際にタイヤをはずし交換までやってみました。

この日はとても良い天気にも恵まれましたが、炎天下でもあったので、車に水分補給するだけでなく、参加者の方々も冷えたスイカを食べ、お茶を飲みながら和やかに講習を楽しみました。

日頃エンジンやブレーキの音の変化や、きき具合に注意し、日常点検をしておくことで自分の車にどのような整備が必要なのか、または必要でないのかをきちんと見定め、自動車整備士に伝えられれば、整備にかかるコストも減らせるかもしれないとのことでした。

自動車はメルボルンでの生活に欠かせません。今回のカルチャースクールでは実際に役立つ情報をたくさん教えて頂きました。参加者の皆様も暑期中、ご苦労さまでした。皆様のお車も無事に走っていくといいですね。

## 一緒にお茶しませんか？

## ホープコネクションからのお知らせ

ホープコネクションでは、プランにあるコミュニティセンターのミーティングルームで以下のようにお茶の会を催しています。シニアの方々を中心にしゃべりをしながら、これからの日本人コミュニティでの高齢者サービスについて意見の交換をしたり、アイデアを出したりできたらと思っています。日本語でのおしゃべりを楽しみたいという方も歓迎です。プランマーケットでの買い物ついでに、お気軽にお立ち寄り下さい。シニアの方には、送迎の手配も可能です。下記までお申し出下さい。

場所 : Grattan Gardens Community Centre

40 Grattan Street Pahrn

日時 : 毎月第二木曜日、午後 1 時から 3 時

申し込み・問い合わせは、ホープコネクション日本語電話相談: 0408 574 824 (月～金曜日、午前 10 時～午後 3 時)

E-Mail: [hopec@optushome.com.au](mailto:hopec@optushome.com.au)

まで

## ホープコネクションからのお知らせ

### ホープコネクション カルチャースクール 『メルボルン生活情報講座』 ようこそメルボルンへ

ホープコネクションでは毎年一回、日本から新しくメルボルンにお越しになった方々のための生活情報講座を開催しています。かつては私たちがもいろいろな不安を抱えてメルボルンに移り住んで来た経験をふまえて、こちらでの生活に少しでもスムーズになれて頂くお手伝いができるようにと、たくさんの情報を集めました。衣食住の全般についての情報が満載です。日本との違いに焦点をあててご説明します。皆さんのご質問にもきめ細かくお答えさせて頂きたいと思っています。ご家族連れでお気軽どうぞ。

日時： 2008年5月24日（土）午前10時～正午

場所： Grattan Gardens Community Centre  
40 Grattan Street, Prahran

（Melway 58 D 5, Commercial Road から南向きに Grattan Street に入っすぐ）

内容： メルボルンの生活に必要な基本的情報

住宅事情、運転・交通機関、教育、医療、銀行・金融機関、通訳サービス etc.

費用： 一人5ドル（コーヒー・紅茶、資料付）

お申し込み・お問い合わせ： 0408-574-824 日本語電話相談（月～金曜日 10時～15時）まで  
または、E-mail： [hopec@optushome.com.au](mailto:hopec@optushome.com.au) まで

チャイルド・ケアご希望の方、こんなことが聞きたいとご希望などありましたら、お申し込みの際にお知らせください。会場・資料準備のため事前の申し込みをお願いいたします。当日の午後9時以降、0408-574-824 にて当日参加の受付もいたしますが、資料がお渡しできない場合もありますことをあらかじめご了承下さい。

### ホープコネクション日本語電話相談のご案内

ホープコネクションでは、1996年8月より日本語での電話相談を行っています。生活の中での困りごとのある方、相談相手のない方、悩み事を誰かに聴いてもらいたい方、お電話をいただければ、訓練を受けたボランティアの相談員が一緒に考えます。内容によっては専門家にご紹介もいたします。さらに現在ではマイグランドリソースセンター（移民のための窓口となる公共団体）をはじめとする、オーストラリアのサービス機関とも協力、連携を深め、ネットワークを広げています。電話は匿名で構いません。秘密は厳守致します。（相談は無料ですが、携帯電話を使用しているため、時間単位の通話料金がかかります。）

電話番号：0408-574-824

受付時間：月～金曜日 午前10時～午後3時まで

祝祭日はお休みをいただきます。あしからずご了承下さい。

ご相談はEメール：[hopec@optushome.com.au](mailto:hopec@optushome.com.au) でも受け付けています。お気軽にご利用下さい。

.....

**Special Thanks to** – 庭野平和財団、Good Neighbours Trust Fund、South Central Region Migrant Resource Centre、Moshi-Moshi ページ Pty Ltd.、メルボルン在住匿名希望の方、Victoria Multicultural Commission、伝言ネット、ユーカー出版、Education Logistics、JCV、豪日協会、佐川義人、Timothy McDonald、Michal Morris、洋子マーフィー、NEC、メルボルン日本人会、大隈良譲、Sandra Roeg、SBS 日本語放送、天野行哲、加茂前千代、Christine J. Rodan、吉澤通明、山本和儀、Mark Preston、Stacey Steele、鈴木月子、田村真美、村越庸子、Jennie Rice、City of Stonnington、City of Port Phillip、Kiyomi Campbell、ZZZ、日豪プレス、Maria Palmares、嘉志摩江身子、2006日豪交流年、新保道滄、Leigh Trinh、岩本幸子、入江鈴子、斉藤喜夫（敬称略・順不同）